



秋田城跡 史跡公園ガイド

平成21年7月13日
秋田城跡調査事務所



秋田城跡キャラクター
秋麻呂くん

秋田市では、市民の貴重な財産である史跡秋田城跡を、次の世代に確実に伝えるために、史跡に関する情報をわかりやすく提供するとともに、郷土学習の場として広く利用して頂くため平成元年度から史跡公園として整備を進めています。

平成19年には、歴史・文化的資源を適切に保存・再生・活用しながら一体的整備がなされているということで、日本の歴史公園100選に選定されました。



■復元された外郭東門と築地塀（南西から）



■復元された政庁地区（北東から）



■復元された古代水洗廁舎（北西から）



秋田城とは

秋田城は、奈良時代に造られた日本最北の「古代城柵」です。城柵とは律令国家が東北地方各地に、蝦夷と呼んでいた在地の人たちの支配や、支配地拡大のための拠点として置いた大規模な地方官庁です。

奈良時代には出羽国の政治を行う「国府」が置かれ、近年の調査成果により遠く中国大陸の渤海国との外交拠点としても重要な役割を果たしていたと考えられています。

秋田城跡はその重要性から、昭和14年に国の史跡に指定されました。

現在の史跡指定面積は高清水丘一帯、約90haにわたり、秋田市が保存管理を行っています。

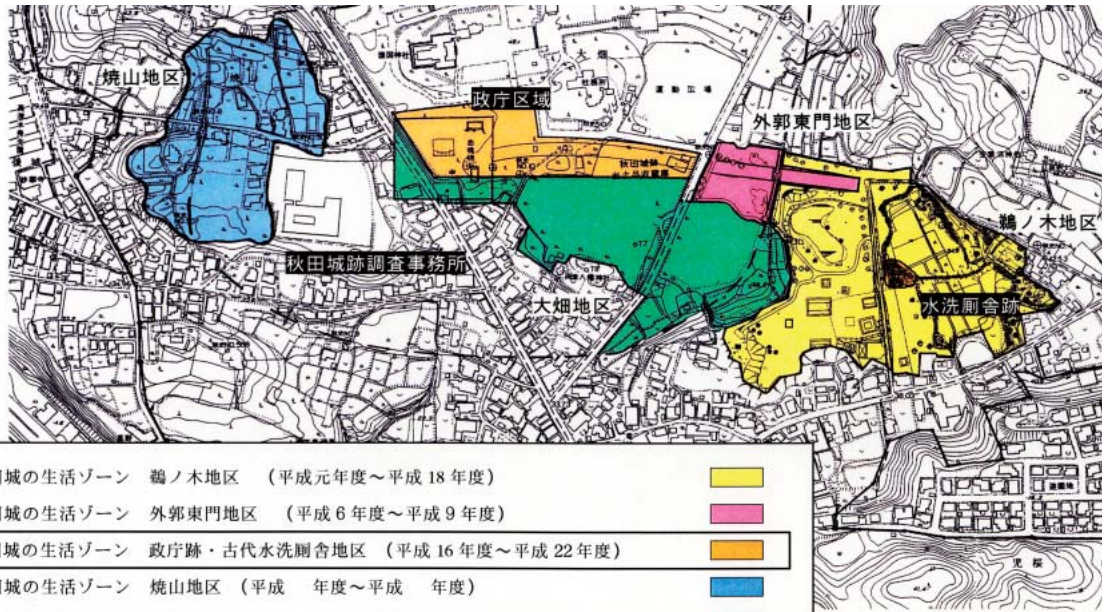


■秋田城跡航空写真（南東から）



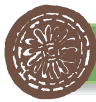
史跡公園としての秋田城

秋田城跡では、調査が進んでいた鶴ノ木地区から政庁域、焼山地区にいたる史跡の東西を、平成元年度から28カ年で結ぶ計画を立て整備を進めています。



第Ⅰ期	古代秋田城の生活ゾーン	鶴ノ木地区	(平成元年度～平成18年度)	
第Ⅱ期	古代秋田城の生活ゾーン	外郭東門地区	(平成6年度～平成9年度)	
第Ⅲ期	古代秋田城の生活ゾーン	政庁跡・古代水洗厠舎地区	(平成16年度～平成22年度)	
第Ⅳ期	古代秋田城の生活ゾーン	焼山地区	(平成 年度～平成 年度)	
第Ⅴ期	古代秋田城の生活ゾーン	大畑地区	(平成 年度～平成 年度)	

■第1次長期計画図



政庁地区の整備

政庁は秋田城の中核で、出羽国内の重要な政務や、城を訪れた蝦夷に対する饗給の他、近年は外国からの使節を迎えて儀式も行われていたと考えられます。

この地区では、数々の儀式や政務が行われた歴史的空間を体験してもらうために、北東コーナーを含む築地塀60mと東門の復元を行っています。

また、正殿等主要な建物については、規則的に建物群が配置されていることを理解してもらうため、平面的に表示する手法を採用しました。



■推定される政庁の姿

①東門の復元

発掘調査では、柱穴が二つしか見つかりませんでした。門に連なる築地塀の高さが低いと推定されたことから、築地塀の一部をくりぬき設置する穴門ではなく、二本の柱からなる棟門として復元しました。棟門については、『平治物語絵詞』等の絵図資料や、現存する中世の建物である『本連寺中門』等を参考にしました。

なお、この門は地面に直接柱を立てた掘立柱の門として復元されること、屋根が瓦葺きで重いこと、風圧や地震等による転倒も考えられたことから、写真のように柱には基礎コンクリートから立てたステンレス鋼管を挿入することで補強しています。



■政庁東門柱設置状況



②築地塀の復元

築地塀については発掘された遺構と文献から、寄せ柱のある版築で、基底幅1.2m、棟高約2.6mに復元しました。

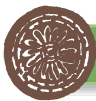
屋根については、瓦の出土量が少ないことから上土形式の板葺きである可能性も考えましたが、次期築地塀に瓦が混入していることや、後の改修に伴う大規模な整地の際に除去されたと考えられること等から、瓦の量は十分あったとし、瓦葺きとしました。

③その他の整備

削平されている政庁域全体の広がりや、変遷が容易に理解できるよう、復元整備した時期であるⅠ期(縮尺1/20)から政庁内の建物がもっとも充実するⅢ期(縮尺1/50)までの模型も屋外展示します。



■政庁東門柱と築地塀関係図



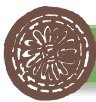
外郭東門地区の整備

初期の秋田城で外側の囲い(外郭)として巡っていた築地塀は瓦葺きの土塀で、本体は土を数cmの厚さに叩き締めながら、高さ3m以上に積み上げていました。この地区では、発掘調査によって確認された東門とそれに連なる築地塀60m、鶉ノ木地区から政庁に続く大路の一部を復元しています。

外郭東門復元の特徴としては、柱の上の桁を支える部分(組物)を、地域性を加味し、秋田県内の中世の建物を参考に、もっとも簡素な舟肘木ふねひじきにしていることがあげられます。また、瓦についても、軒を飾る軒平・丸瓦が検出されなかったことから、平瓦を二枚重ねて、丸瓦には漆喰に墨を混ぜ黒くしたものを詰め、それぞれの代わりとしています。なお、いろいろな色の瓦が検出されたことから、当時の姿に近い数種類の色の瓦で葺いています。



■復元された外郭東門と築地塀



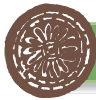
鶉ノ木地区の整備

秋田城の南東側城外にあたる鶉ノ木地区には、城に付属する寺院や客館施設があったと考えられます。ここでは、この地区の特徴である大規模な建物が規則的に配置されていることを理解してもらうために、柱位置やその径、軒の出等を一部高さを加え平面的に表示する手法を採用しました。

また、この地区の東側には建物群に付属する古代水洗厠舎かわやが立体復元されています。



■鶉ノ木地区航空写真(東から)



鶉ノ木地区古代水洗厠舎の整備

①厠舎の語るもの

沼地の岸边に建てられた水洗厠舎は、発掘調査の結果から奈良時代後半のものであることがわかっています。古代においてこの水洗厠舎のように、上屋構造を持ち、かつ建物内部の部屋の構造、それに水洗施設が機能的に整備された遺構は現在のところ、秋田城跡だけです。

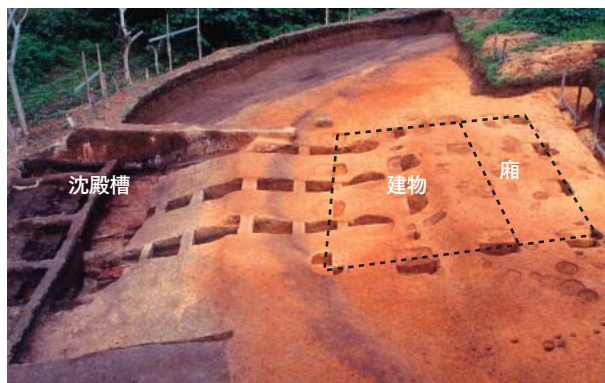
また、沈殿槽から検出された有鉤条虫卵は、豚食を常食とする人間に感染する条虫の卵で、限られた遺跡でしか検出されていない極めて特殊なものです。豚食の習慣は古代日本にはなく、中国大陸などに見られることや、奈良時代には中国大陸にあった渤海国から出羽国に使節が来航したとの記録もありますので、その渤海使が使用した可能性もあります。

②厠舎の構造

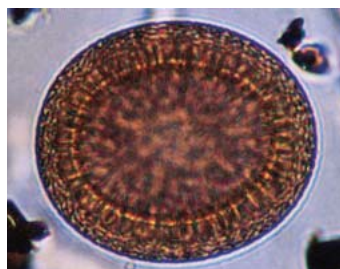
建物跡の中には3基の便槽が配置され、それぞれから北側の沼地斜面方向に木樋が埋設され(傾斜角は約6度)その先端の沼地部分に沈殿槽が掘られています。この便槽・木樋等については、一基は発掘状態を再現し、もう一基は構造がわかるように復元した便槽・木樋などについて土を取り除いた状態のもの、最後の一基は、水を流す体験ができるものとし、遺構に対する理解を深めてもらう工夫をしています。

また、建物内部については3室に分け、それぞれが壁で仕切られた個室に復元しました。ただし、個室に扉を設置すると古代の厠舎としては立派過ぎることや、個室が暗くなってしまう等の理由から扉を付けていません。

なお、発掘調査では、水洗用の給水設備が確認されなかったことから、器による貯水を考え、出土例豊富な須恵器大甕(容量約79ℓ)と、これも出土例のある柄杓(容量約1.1ℓ)のレプリカを製作し、体験用に使用しています。



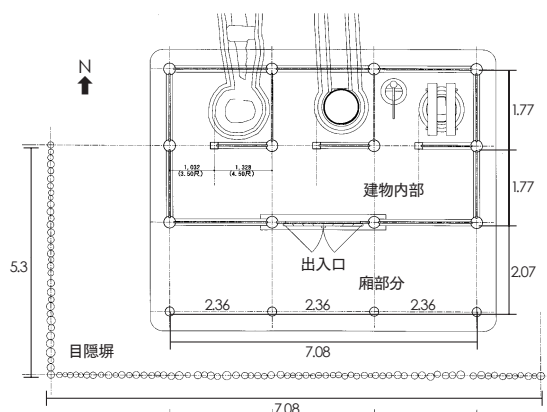
■古代水洗厠舎遺構写真(西から)



■検出された有鉤条虫卵



■木樋等複製品設置状況



■復元厠舎平面図

秋田城跡のイベントや案内に関するお問い合わせは

秋田市教育委員会 秋田城跡調査事務所
〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号
TEL.018-845-1837 FAX.018-845-1318

(ホームページ)

<http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/ac/Default.htm>

